

町政座談会（井原地区）

日 時 令和6年1月22日（水）
18：30～20：00
場 所 井原公民館

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。町長の大屋光宏です。この度、町政座談会を開催しましたところ、出かけにくい時期に、また寒い時間帯にお仕事が終わってお疲れのところ、ご出席いただきまして、大変ありがとうございます。町長にならせていただきまして、まず感心を持っていただいている、その感心を町政運営の力に替えたいということで、情報発信をきちんとしたいですということと、皆さんの声を聞く場をきちんと設けていきますと言いました。

10月に町長にならせていただいて、11月12月と、いろいろな調整をしましたが、どうしてもこの時期になってしまいました。個人的には1月の半ばから2月の半ばは、日は少し長くなって5時半くらいまでは仕事ができるほどに明るくなってはきましたが、一番寒い時期です。12公民館を順番にしていきたいと思いますが、順調にいけるかどうか不安なところもありますが、今のところ、こうやって3カ所目の井原を開催することができました。大変ありがとうございました。

町長にならせていただきまして、思うことは多々あるんですが、自分で何かをするよりは、決められた会議や行き先があって行動していく。自らの判断でということはずごく少ないということと。今までは、日常生活があってというのは変ですが、自分の仕事なり、家族のことであったり、そういうことがありながら議員活動をしたりして、皆さんと一緒に何かをする中で声を聞いたり、思いを持って議員として町に提言していました。

町長は意外と日常生活がなくなったような中で、ある意味、特別な存在みたいな形で、今までの経験だけを元に判断する。なかなか皆さんと接する機会は少なく、いろいろな判断が正しいかどうか不安になることも多々あるんですが、そういう意味で、このような町政座談会を開いて、皆さんの顔を見て思いを聞くというのは、私にとっても大事な場だと思っています。年末年始が9連休でして年があげまして、土日のうちにどちらかは休めますし、年末年始もしっかり休むことができ、少し自分のペースが掴めつつあるかと思っています。

今日は、まず25分程度、私がしゃべって、5分程度、教育長がしゃべって、できれば1時間くらいは皆さんとのやり取りができればいいと思っています。

本来、町の財政が厳しいですというような数字であるとか、人口が少なくなっていますという数字を示しながらお話をするのが一番いいのかもしれませんが、今後、取り組んでいきたいことや、取り組んでいくことということで、箇条書きをさせていただきます。

就任式でも、職員の皆さんにもまずは財政の再建、立て直しに協力してくださいという話をしまして。財政と言うと、出る方を絞るだけの話もあるかもしれませんが。入るのを増やすのは、ふるさと納税くらいしか道はないです。何かをしたいときにちょうどいい交付金があれば一番いいんですが、補助金があるからやるというのは、どうかなということも職員の皆さんに話をしました。

一方で、削減ばかりで自分たちも大変というのは申し訳ないので、しっかり事業の見直しをして削減ができて財源が生み出せれば、その成果を職員の皆さんには町民として受けて欲しいという話をしました。浮いたお金で生み出された財源で、町民の皆さんに対して、自分たちが生活する中で施策として組んでもらう。町民としてその恩恵を受ける。そういう循環ができれば、仕事のモチベーションが保てるかなと思っています。私自身も、どこかで少しはと思います。

東京に出張させていただいてもホテル代がすごく高くなっていますが、現実には、条例があって、1万4千円だとか、1万3千円だとか、場所によって決まっています。当然、その範疇でしなきゃいけないですし、交通費もできれば少しでも安くなればと思っています。そういうことで、予算が少しでも余れば、また次のことができるのかなと思います。そこは率先していこうと思いつつも、なかなかその範囲でしようと思うと、今の時代は大変だなと思いますが、そういうことも感じないといけないと思っています。

今、予算を編成している最中なので、言えることと言えないことがあるんですが、職員さんから決裁として来年度予算でこういうことをしたいですというのが来ます。その中で、特定検診で、皆さんが対象かどうかわかりませんが、町の検診で一回当たり500円とか、お金をいただいています。それを辞めたいですというのが出ました。財政が厳しいので、いただくものを辞めるといえるかどうかということもあるんですが、そこは国保とかで基金がある程度貯まっているので、国保税を上げる上げを常にするよりは、そういうことで返したいというのが本来の趣旨だったんです。

私から見たときに、確かに500円が高いか安いではなく、お金を集める手間というのはすごく大変で、領収書も発行しないといけない。間違いがあってもいけない。事務負担を考えれば、もしかしたらこれを辞めたときに成果は目に見える部分じゃなくて、それ以外の事務負担であるとか、もしかしたら超過勤務になっていることの削減につながるという見方をすれば、全体の経費節減になるかもしれない。でも、じゃあ税金とか水道代とかやめてくれというのは、また別の話なので、新しい発想も必要なのかなと思いました。

今後、取り組みたいことの2番目に行財政改革と、プロジェクトチームと書いています。副町長を中心に設置して準備をしていますが、目的がなくてどうしたらいいのかという議論はまず無理です。確かに、全体の支出を抑えてと言ったときに、どこが目標かというのは分かりにくいかなと思っています。自治会や集落と同じで、入ってくるお金と出ていくお金のバランスがとれればいいだけと言えば、そうですが。そのために何かもう少し、残業しなくてもいい仕組みにしませんか？とか。何か具体的な提案など。残業手当を減らしましょう。そのためには？というようなテーマをこちらから出さないと進めにくいのかなと思います。行財政改革はしっかりやっつけようと思いつつも、そのやり方はもう少し工夫しなければいけないかなと思っています。

すみません、座ってしゃべらせてください。冒頭の話ではないですが、井原地区の皆さんにつきましては、昨日、雲井の里の皆さんが、雲井の里の今後についてしっかり支えてほしいという願いに来られました。道の駅みずほの名前も変わりまですし建て替えになります。非常に心配されているんだと思います。

議会の一般質問等でも、建前上は、道の駅みずほを大きくするのは農産物がたくさんあってたくさん出ている、売り場が少ないから駐車場が少ないからということ

で始まっています。現実には、あれだけのものをつくって、ものが集まるのかと言われていますが、ものがたくさんあるから建て替えをしたんだというのが現実です。そういえば、雲井の里さんにあまり影響があるわけではないはずだけど、過去に、道の駅みずほができたときでも、雲井の里さんの売り上げは延びていたけど。でもやっぱり新しい道の駅がゼロからつくられると、そこにものが集まって、売り上げが減ってくるというのが現実であったんです。今回は建前上、そういう影響は出ないはずですけど、ただ町内全体で見ると、生産量が減ってきている中で、確かにものが集まらない。出荷されるものが少ないという現状がありますので、そのあたりは直売所をどう支えるかというよりは、しっかり町としては生産をしていただいて出荷していただく仕組みをつくらないといけないと思っています。

話が前にいったり、後ろに下がったりしますが。この度、秋に米が高かったです。今、野菜も高いです。この雰囲気であれば、普通なら何もしなくても米をたくさん作りますとか、面積を増やしますとか、野菜の生産量の面積も増やしますというのが本来なんですけど、実はそういう話はほとんど聞こえてきていないのが現状です。それほど高齢化してきたり、農作業の負担が高まっているんだと思います。そういう意味で、少し町としても後押しをして、せめて現状維持、もしくは少し増やすということで。米も野菜もそうです。しっかり生産を支えて、直売所なども出荷率が上がるようにしていかなきゃいけないと思っています。

併せて、今日も役場の中で内部協議をして皆さんの耳にもある程度届いていると思います。この公民館の建て替えについて、しっかりとした準備をしていこうと思っています。その点はまた場所や場面を変えて、丁寧に説明する場があると思います。もう目に見える形で、来年度からしっかり進めていきたいと思っています。

あとは、今後取り組んでいくことを少し説明したいと思います。町長という立場になって12月議会が過ぎまして反省するのは、今まで日常生活があって、町民の立場でいろいろなものを見ていた中で、立場が変わると見えなくなってしまう。例えば、12月議会で、漆谷議員さんから日本一の子育て村の看板が古くなってきて、字がくすんでいると言われました。その気になって見れば、役場の前も毎日通るのでそうなんですけど、町として一度建てたものやつくったものはそれでおしまいということで目が行き届いていない。

この度の1月の補正で、議会で矢上の香梅苑の横にあります屋根付きの多目的施設について、塗装の塗り替えをすれば長持ちするのか、修繕が必要なのかという調査費を計上しました。住民の方から、「やっとやってもらえるんだね。通るたびに気になっとなんだわ。」と言われました。その気になってみれば、確かに錆がいっぱい出ているし、そりゃあ心配だなと思いますけど、そういうことが、見えなくなっている自分に対してもう少し気を付けないといけないと。

町の施設というのは、道路も橋もそうですけど、つくっておしまいではなくて、自分たちのものは自分のものとして大丈夫かな、次は何かしなきゃいけないのかなという見方をしていけないといけないと思っています。

そういう意味で、こういう意見交換で、いろいろな意見をいただいて気持ちをきちんと現場から離れないように、皆さんから離れないようにしていきたいと思っています。少し前置きを長くしゃべりましたが、取り組みたいことについて説明をさせていただきます。

小中学校の統廃合は、あらゆる場面で最近、口に出しています。12月議会でも話がありました。所信表明でも話をさせていただきました。唐突だという話もあり

ましたが、全ての小中学校がある程度修繕がされていて、長持ちする状況なら話は別ですが、石見東は大規模修繕がしてありますし、石見中学校は建て替わりましたが、ほぼ全てがもう次は建て替えなりを考えなきゃいけない時期にみんな来ています。その中で、お子さんの数が減っている以上、教育をどうやって維持するかというためには統廃合が必要だし、児童クラブも給食センターも考えないといけないと思っています。

数字は出していません、参考ですが、今の小学生、中学生は一学年約70人です。今、保育所におられるお子さんは300人なので、一学年50人くらいです。70人から50人に減っています。ただ、全てが保育所に行っておられるわけではないですし、今後、Uターン、Iターンがあれば増えるわけですが、それが現状です。今年度生まれたお子さんは、12月までで28人です。そうするとおのずといろいろなことがわかってくると思うんですが。

あまり数字を出すと小学校も中学校も一つでいいんじゃないかという話になるので、この先にちょっと変わることがあるので、参考までに聞いておいていただければと思います。こういう現状の中で財政をどうするのか。小中学校をどうするのか。働き手をどうやって確保するのか。あとで出てきますが、福祉施設もそうだと思います。そういうことを考えていかなきゃいけない状況になると思ってください。

公共施設の統廃合も、自治会館は、井原のようにコミュニティの再編で一つになって、自治会館を使わないよというところから順番にと思っていますし、斎場も書いていますが、邑南町として、それぞれもう建て替えの時期に来ています。そうした時に今までどおりにはちょっといかなかなという意味で、統廃合の対象として公共施設等の管理計画も書いてありますので、ご理解いただければと思います。

ただ一方で、何もかも施設はなくしていくんだよでいいのかなという気持ちがあって、遊休の公共施設の新たな活用策も考えたいと思っています。それは、例えば、学校や保育所とか自治会館とか、使わなくなったときに、ただ壊すだけでいいのか、その他の使い方や産業としても活用策がないのか。地域のため、産業振興のための使い方があれば、その使い方も考えながら、せっかくあるものを壊すだけじゃなくて、新たな活用も考えて統廃合を進めていければと思っています。あくまでも検討ですが、可能性がどこにあるのかというは探らなければいけないと思っています。

住宅についても、この地域もいろいろな活動の中で空き家活用もされたと思います。邑南町の不思議なところは、住宅はいっぱい空いています。空き家もたくさんあります。けど一般的には、住むところがないと言われます。病院だとか、結婚されたときとか、家を建てたい、家を探すというというときに、ないのが現状です。住宅は決まりがあって、所得で入れる入れないがあります。

空き家も大きすぎるとか、宅地があるかということ、ないのが現状です。そういう定住対策の一環として、公営住宅の運用の見直しで入ることができればということも試験的にできればと思っています。空き家対策も含めて、住む場所の確保について考えたいと思っています。

産業振興も書いていますが、簡単に話をしますと、一つはあくまでも町内の企業を支えたい。町内でも経済循環、買い物をしてもらうようにしたいということで、さくらカードや商工会の活動を応援しながら進めていければと思っています。所得向上ということも言っていますが、町内で働いて、資格を取りながら働く。個々の能力アップが所得向上につながるのであれば、応援したいですし、会社にとっても資格がなければ仕事が出来ないのであれば、その資格を取ることに對して応援して

いきたいと思います。外国人の労働者についても、今は個々で入れておられて、入れるところまでは応援できないかもしれませんが、長くいていただくために日本語を学ぶ場であるとか、そういう皆でできることは町が率先して応援していければと思っています。

その後も、2つ書いてありますが、矢上高校の卒業生と石見養護学校の卒業生の町内定着事業と書いています。せっかく、町内に県立高校が2つありながら、その卒業生が町内ですぐに就職することは少ないですし、進学して帰ってきていただくということも少ないです。特に、矢上高校は入学定員を満たしているということで、県外からもたくさん来ていただいて、町もたくさん応援はしています。けど町内に人が足りないということは、やはりその卒業生に次は町内で働いて生活していただく道筋をつけていかなければいけないし、そこにお金使うことに対して皆さんの理解を得られるようにと思っています。ただ一方で、資格がなければ、大学や専門学校にいかねば取れない資格もありますし、働くためには必要な部分もありますので、それについても奨学金等で応援して。子育て村ということでPRして頑張ってきましたので、やはりお子さんが多いお家は多いです。ただそれが進学になると、負担になるので、そこも考えなければいけないと思っています。

少し飛ばして改革というところもあります。常に、日本一の子育て村はどうするのかという質問を多々受けます。看板がくすんでいますがきれいにして、せっかくの看板ですので、大事にしていきたいと思っています。ただ、日本一の子育て村とか、それは何なの？という話があるので、やはり、これからすべきことは、皆さんと話をしたいですし、福祉施設の在り方についても話をしたいと思っています。これも、たまたま並べて書いただけですが、どちらも大事だし、関連しているということもあります。

数字を出していませんが、今年の4月から社協さんが、デイサービスとか訪問看護を辞めるということが問題になっています。その対応は、ほぼ済んでいるんですが、なぜ？と皆さんに言われます。一つは、きちんと町も示してこなかったのがいけないんだと思いますが、数字の錯覚の部分があって。高齢者は増えていると言われますが、実は邑南町は増えていないんです。減っています。高齢化率は、ほぼ45%くらいで変わらないです。全体の人口が減ってきている分だけは、減ってきています。そういう意味では、医療福祉施設の今後は、難しくなるんだと思います。

邑智病院がこの度、建て替わってどうなんだ？大丈夫か？ということがあるかもしれません。邑智病院は、治療される患者さんについて、郡内の人は減ってきているけど、今まで郡外に受診されている方の移動が難しくなっていく今後、年をとられてくると、どうしても邑智病院を頼らざるを得ない。そこを見通した中で利用される患者さんの数は大きく減らないだろうということで、今の規模を維持して建て替えをされました。そういう見通しを持った中でしなければいけないと思いますし、子育て世代と福祉施設の担い手は、ほぼ同じなんだと思います。頼らざるを得ない世代は子育て世代ですし、その人たちが正社員として福祉施設で働く。子育てがきちんとできる、負担がなくてできる環境をつくらないと、福祉施設も成り立たない。働いてもらえないということがあると思いますので、併せて考えていければと思います。

一つ飛ばして、老人クラブ、一人暮らし世帯の社会参画、つながり活動の強化と書いています。高齢者の絶対数は増えていませんとはいいましたが、一方で、人生が100年、長生きする時代になりました。その中で、どのように生活していくのか

学んでいくのかということをしっかり支えていきたいですし。

100歳大学と書いていますが、ちょっと聞きなれない言葉ですみません。12月議会でも提案がありまして、高齢者の方々の学びの場として、こういうものをつくったらどうかと言われました。これは近畿を中心に流行っている言葉です。

ただ邑南町が全く高齢者のための活動をしていないわけでもないですし、公民館を中心に社会教育としてやっています。それを体系化するかしらないかだけの話ですが、しっかり支えていきたいと思えます。

財政が大変ですという話をしてはいるんですが、町としていい部分はしっかり支えていきたいという思いがあります。その一つが、保健医療福祉の最後に書いていることなんですが。邑南町は、一人当たりの医療費が島根県内では安い方です。大きな病気が少なく、邑智病院などのかかりつけ医のところに常に行かれることによって、全体の負担が減っているということがあります。

併せて、保健師さん等の活動の成果として、日常的に検診をきちんと受けていただいているということもありますので、それは続けていくことが大事だと思っています。そうは言いながら、40歳、50歳の検診の受診率は低いので、そこは人間ドックの受診率の向上とか。地域おこし協力隊の若い人もたくさん入ってきていただいています。神紅のブドウをつくっている方もおられますが、20代は自営業の人は検診の対応が一切されていないです。農協さんがされる部分で受けていければいいんですが、そうでなければいけないので、そういうところも考えたいと思っています。

最後に少しだけすみません、もうちょっと。部活動の地域移行というのは、すでに言葉が出ています。町長になってやっとわかる部分の一つが、「町は何でもっと早く動けないの？」と言われます。組織も小さいですし、住民の皆さんに密着していますので、本来はもっとスピーディーに動けるはずなんですが、ただ一方で、部活動の地域移行は、国が方針を示して、県が方針を示して、やっと動ける。先に動いてもいいんだけど、やはり順番でなければ様子がわからないこともあって、部活動の地域移行も、早く言葉は出てきましたが、やっとこの1月に県が計画をつくられました。ただ、2030年の国スポが島根で行われますので、それまでには移行しましょうということ。来年度から一気に計画作成をして指導者を育成して、ハード面の整備等に取り組んでいければと思っています。動きは遅いですが、しっかり準備をして動き出したら、すぐに成果が皆さんに見ていただけるように、わかるようにしていきたいと思えます。

その他を少し書いています。一つは職員の副業についてということ。公務員は副業をしてはいけないと、私もずっと思っていました。昔からそうなのかもしれないんですが、きちんと許可を得て、ルール範囲内であれば副業をしてもいいです。地域でこれだけ人手が足りなくて、地域行事だとか、消防団もそうです。何が副業かというのもあるんですが、地域にしっかり関心を持っていただきたいですし、職場でも他の人の仕事に関心を持っていただいて、個々の能力も上げていただきたいので、やっていいことはしっかり活用できればと思います。

もう一つは、定期的な住民の会の開催ということで、この度のような町政座談会をしっかり開催していきたいと思えますし、以前は女性の会ということもしていました。女性に限定するのがいいのか悪いのかは別として、地域や職業、世代とかに分けてでも、極力、こういう会を開いていきたいと思えます。その理由は、皆さんの思いも聞きたいということが一つと、もう一つは、人口が少ない町でありながら、

関わりが少ない人もおられます。こちらが気が付かない人たちもおられます。人材発掘という意味で、いろいろな会をつくっていけば、どこか出れるところに出ていただければ、それが次につながって、その人も地域と関われる。行政側としても、次のいろいろな役割をお願いしたり、地域の中心となっていただけるという思いもありまして、積極的に会を開きながら人材の発掘に努めたいと思っています。

最後に、自治体連携と書いていますが、邑南町だけでできないことは、浜田市、江津市とも協力しながら。特に道の駅ができて、霧の湯もこの4月には再開できればと思っています。観光振興も一つの町でするのが全てではないので、周辺の町の力を借りる立場だとは思いますが、協力できればと思っています。一方的にしゃべりましたが、私からの話は以上で終わらせていただいて、教育長から少し話をさせていただきます。

2. 教育長あいさつ

改めまして、皆さまこんばんは。教育委員会の大橋でございます。よろしく願います。まず、石見東小学校、石見中学校との活動に際しまして、いろいろとご支援ご協力いただいております。また、公民館活動につきましても参加も含めていろいろとご支援をいただいております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

私の方からは、1点、お伝えしておきたいと思います。今、お手元にカラー刷りの資料を用意させていただきました。情報量がとても多くて、全て説明というわけにはいきませんが、少しイメージを持っていただければと思います。

全面印刷したページを上にしていただいて、その左側にありますコミュニティスクールという言葉についてお伝えしたいと思います。町として、令和7年度の一年をかけて、このコミュニティスクールというものをご理解いただくための取り組みをして、実質的に導入するのは令和8年度と考えております。

そのページの中ほどですが、コミュニティスクールとは、学校運営協議会を導入した学校というふうにイコールで示させていただいております。では、学校運営協議会というのは、一体何なのかということですが、邑南町の場合は、学校と地域の皆さんと良好な関係性の元に教育課程が進められている環境がすでにあります。いろいろな関係性を維持させていただいております。これを将来につなぐために、しっかりと制度化していこう、システムとして明確にしていこうというのが、この地域運営協議会です。

基本的には、学校の思いを形にしていくという今までの姿と変わりないと思っております。右の方ですが、ただ文科省が1点、求めているのが、右のページで四角囲みで書いている3つのうちの一番上です。学校の経営方針を地域の皆さまが承認していくという新たな作業が生まれてきます。今までは学校の方針に基づいて、地域の皆さんがその思いを最大限形にしていこうというところで協力いただいております。まずもって、学校の思いを地域の皆さんと共有していく、つまりその中で、地域の皆さんの思いをしっかりと学校に汲んでもらうという双方向の思いのやり取りが、ここで出てくると感じております。まずもって、こういう新たな取り組みを構築していきたいと思っております。

そのページの一番下です。邑南町のコミュニティスクールが目指す目標や効果と書いていますが、一番は、以前、実施しました校区内の300人委員会であったり、

1000人委員会であったり、あるいは、公民館を中心に求める子ども像を共有した場面をつくらせていただきました。そういったものの延長線上にもあるというのが、このコミュニティスクールであるのご理解いただければと思います。

最後にその裏面です。その導入のメリットとあります。最初の四角囲みにつきましては、学校を見たときに学校が地域と共にと、学校のための完結型の教育ではなく、地域と共にある学校づくりを学校がしていくという視点が1点と。

もう1点は、その下ですが、今度は学校を核とした地域づくりも併せて取り組んでいくと。先ほど申しました双方向の思いのやり取りの中で、活動していくということで学校のための思いだけでなく、地域の思いもしっかり生かしていきながらより効果のある動きを行っていくというように期待しているところです。

最後に邑南町のイメージ図がありますが、基本的には、全国的に見たときには各小学校単位でこういう協議会を立ち上げていくことが多いですが、中学校の場合は9年間を意識していこうということで、中学校区でこういった協議会をつくり上げて、小学校、中学校の連動性を持った教育を展開していこうと思っております。詳細につきましては、また来年度以降にしっかりお伝えしていきながらご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。以上でございます。

3. 意見交換

大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、意見交換ということで進めて参ります。ご出席の皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思っております。お一人お一人ずつお願いしたいと思っております。たくさんの方からご意見ご質問を頂戴したいと考えておりますので、ご理解をよろしくお願いいたします。それでは、手を挙げていただきますとマイクをお持ちしますので、どなたからでもかまいませんので、お願いいたします。

○ ○と申します。簡潔に申します。先ほど、町長が雲井の里の関係のことをおっしゃったんですが、私も井原の人間ですから、井原のことについて意見を申したいんですが。

雲井の里の関係者や代表者の方がおいでになられたということで、それは大変結構なことなんですが、そういう意味では私が申し上げるのは、不服的な意見ということになろうかと思っております。

実は、これは平成9年に建てたんです。その頃は、僕も大なり小なりタッチしているんです。それで強調したいのは、井原の住民の皆さん、金額の多い少ないは多少あっても、一人一人に出資していただいております。1万円、3万、10万、50万というようにね。井原の皆さんの汗が染み込んでいるといえますか。民活を利用した建物なんです。隣のは、こう言ったら申し訳ないけど、官製の建物なんですよね、瑞穂町時代の。だからちょっと生い立ちが違うので、特に強調したいのは、この井原を活性化しようということで、高齢者の生きがいと言いますか、いろいろな思いを込めて建てた経緯があるので、3大型事業をされましたよね。これはこれで結構なんですが、片一方にはそういう産直市に町財政を投入すると、それはいいですよ、別に問題ないですが。今度は、ここにある程度、町行政として力を入れてほしいという思いがある。

例えば、一つの例として模索しているのは、いこいのスペースと言いますか、カフェとか、うどんとかそばとか、ああいうものをやろうとなるんですが、まず

財源を考えていかないといけない。それでまた住民の皆さんに寄付行為をやっていくのも、それも一つの方法ですが、同時に町行政としてもここに光を当ててもらって、最大限、助成していただきたい。我々も野菜も苦労して集荷活動など展開してあるんです。僕も微力ではありますが、いろいろと当たりよるんです。当時、集客に苦労して、あれやこれや知恵を絞ってやっているんです。

先般も矢上高校生、島大生も交えて餅つき大会なんか好評なんです。いろいろ寄席的な落語を呼んだり、井原未来クラブというのがあるんですが、それらをいろいろイベントをやるとか知恵を絞ってやっている。アイデアを練ってやっている状況でありますので、我々も頑張りますけど町行政も後押しを、さっきおっしゃいましたが、それを最大限バックアップしていただきたいという、そういう強い思いがあります。

それともう一つは、行財政改革で町議会も傍聴させてもらっているんですが、町長の答弁も前町長からずっと続いているんですが、1次、2次と計画はできておりますよね。公共施設のぶんは。僕もその都度パブリックコメントを出させていただいておりますが、遅々として進んでいない、端的に言って。だから非常に難しい問題なんです。できることからやったらいいんじゃないかということ。一つの考え方として経費節減運動をやらないといけないと思うんです。歳出の改善とか支出の改善をしていくという中で、経費を節減するというね。例えば、夜遅くまで煌々と電灯がついている。今、光熱費も上がってきているわけですし、残業、超過勤務というところも、やっぱり意識して最大限、日中に仕事をフル回転して。仕事はどこも厳しいですよ、どこも。その辺をやるとか、業務改善運動となるとね、浜田市もやっておるでしょう。今、浜田と連携していますと言いますが。そういった面も含めて業務改善運動も、展開していくことが大事だろうと思うんです。

さっきおっしゃるように統廃合の問題、公共施設の解体、あるいは民間とかね、複合施設にするとかいろいろな案はありますよ。文書では、それを一つ一つ実行していくようにすることが大事なんじゃないかと思えますし、この度、トップが変わられましたから、また違った視点といいます、違った手腕といいますか、ぜひ発揮していただきたいと思えますし、お伺いします。

大屋町長 ありがとうございます。雲井の里の件については、昨日もいろいろな要望を受けました。ただ若干、道の駅との差もいろいろとあるのをわかった上で、あえてお話をさせていただくと、農産物なり加工品だとか、花であるとか、売るのがなければ、いくら人が集まって難しい。ベースはそこなので、まずは生産面で町として応援していきたいですし、今、地産地消であるとか、道の駅をよくするものはいろいろあるんです。

ただ、今言われましたけど、本来は、町内の生産量が増えるのが町の目的です。今は減ってくる生産量の取り合いになっている。どこに建つかだけの話であって、道の駅にたくさん集まって売り上げが伸びましたが、町の実産量は減っていますというのでは、町としては本来の思いじゃないです。まずは、しっかり生産量を増やすところで雲井の里をバックアップしたい。その結果によって、人が集まる、賑わいができるということで次のステップに進むときは、そこをまた応援していこうと思っていますので、まずは生産面でのバックアップだと思っています。それは町の役割の大きな部分だと思います。

行財政改革について、言われていることは重々わかります。計画どおりしなき

やいけないですし、まず残業を減らしましょうと。いろいろなことを犠牲にしてそこまで仕事をするべきではないという思いもあります。ただ、現状は遅々として進んでいなかった。今まで進んでいなかったのが、すぐに帰れるのかという、その大きな原因は、やはり大型投資が続いて、人もお金もそこに取られていった中で、皆さんに仕事をしていただいているので、業務改善をするという余裕はない。目の前のことで精いっぱいというのが現状です。

そこを改善するために、副町長を中心にプロジェクトチームをつくってやろうと思っています。仕事始め式でも少し話をしたんですが、公務員の世界は、年が変わったからって何か変わるわけじゃなくて、年度という一つの区切りがある中で、1月から3月は、今年度の仕事をしっかり仕上げてください、尚且つ、来年度の準備をする期間ですと言いました。その準備がしっかりできなくて、年度が替わっても引きずるところもあったので、少し大変だけど、今、きちんと仕事していただいで、来年度、余裕を持ちながら業務改善や次年度にどうすればいいのかと。いい循環をつくりたいと思うので、目に見えて変わったねというのは、1年くらいかかるかもしれませんが、絶対しなきゃいけないことなので、しっかり副町長を中心に進めていく準備をしていますので、ご理解いただければと思います。

大賀総務課長 ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。

○ 行財政改改革は、あとで回答される？

大屋町長 当然、プロジェクトチームの中でそれをやっていくので、その中でまた目に見えた形で細かい事務改善だとか、残業が減っていくというのは、その次だと思います。それをしないと最後に言ったとおり、職員にもっと地域に関わってくださいというわけにはいかないの、そういう良い循環をつくっていきたいと思っています。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

○ 1点と言われたんですが、ちょっと1点はお伺いと、もう1点はお願いをしたいです。まず1点は、町長には、昨年自治会長会の際にお話ししたんですが、水道水PFASの問題です。今、岡山県の吉備中央町で大変問題になっておって、NHKで昨年の12月1日に特集番組をやられています。質問させてもらう以上は、私も知識を取らないと思って、NHKの番組の資料から取らせてもらったんです。今、PFASの全国調査が環境省と国土交通省から2020年から24年にかけて、各地方自治体に調査依頼があって、その集計が昨年の9月末日に出て、NHKでそれを取りまとめた資料が、出ています。この中に、中国地方で検査をしていないところがほとんどが島根県なんです。隣の町、川本、美郷、邑智郡はどこもやっていないんです。あれからお聞きしたんですが、ここまでで検査をされていますか。

白須副町長 まだしてないです。

○ なんでしていない？

白須副町長 副町長の白須です。よろしくお願ひします。先ほど、○さんから質問があったPFASというのは、有機フッ素化合物、健康に有害性の高い物質が水道水に含まれているということが全国的に問題になって。昨年の夏ごろから週刊誌等でも取り上げられて、結構、岡山県の吉備中央町の辺りが大きく取り上げられて大きく報道もされています。

それで、邑南町もその時点で、この対応をどうするかという検討をしました。

その時点では、国が定める水道水の検査項目にこのP F A Sという項目が今も入っていないんですが、当時も入っていないということで、ここは周りの市町の状況も見たりして、国の動きも併せて見たりして様子を見ようと。

ただ、当初予算には挙げて、検査をしていこうという町としての方針を立てました。それで、昨年度は実施していないという状況です。それで、来年度の当初予算はまだ編成中なんですが、来年度の当初予算には検査費用を計上して、4月には実施したいと考えております。

島根県でやっている町村が少ないという話がありました。アンケートの中身を見たりしたんですが、P F A Sの水道水に含まれているというところは、工場地帯であったり、岡山県の吉備中央町は、近くに資材置き場にP F A Sが吸着した活性炭が野ざらしになって積みあがっているということで、検査数値が高くなったと聞いております。

アンケート結果を見ますと、町内の各自治体の判断として、地域の環境的にそういった状況にないから検査をしないという回答も一定程度あったと確認しております。島根県で検査をしないという自治体も、そういったことも要因としてあるのではないかと思います。以上です。

- 反論したいんですが。何で私がこれを言うかということ、私が役場におった時代に、平成31年当時くらいだと思うんですが、水道料を改定して公営企業に移行しました。その時に、安心安全な水を供給するというので、ご理解をいただいてやってきたというのがありますので、どうしても私は気になります。

今、副町長がこの辺は工業地帯もないし、いろいろなものがないという話をされたんだけど、実際、隣の町の安芸高田市は37レベルです。庄原にしても三次にしても数値がでています。

ここに何もなくて言われるけど、実際、大利の埵、広島と島根の間の市木の県道ですね。あそこって、すごく不法投棄があるんです。そのときに、水道課と市木の住民さんとでボランティアで半日以上かかって回収しました。しかし、それは表に見えるだけのもの。あそこに行くと、地下にいっぱいあるんです。それから大利の埵も一時、問題になったんですけど、今は通られなくなったんで認識がなくなってきていると思うんだけど、あそこにもすごく不法投棄があるんです。

それから、水道課時代に水源地をまわりましたが、そこにも思わぬ不法投棄は至る箇所にあるんです。それがどうものが発生しているかというのは全然わかっていない。そういうことを考えると、早めに検査して安全ということを知らせんと、いけんと思うんです。

これを放っておいて、もし万が一出たときは、行政が怠慢だったから来年度予算までの今からでも約100日あるんです。その間、飲料水として、その人たちは飲んでいるわけだから、そうするとそれに関わった人は、全部、町費をもって健康診断するとか、いろいろなことが出てくる。もしかすると、訴訟の対象になる、そういう認識が町にはあったのかと。20年からそういう通知が環境省から来ているのに、それを放っておいて、よそに出てないんだけらいいわということ自体が、考え方としておかしいんじゃないかと。

予算を取らなくても、毎月の検査費とかそういうのがあるんですから、それらを流用して、あとで補正でつけておくとかということも十分できたはずなので、そういうところの問題意識は持っていないと、万が一出たらどうするんですか。

吉備中央町もそういう形でやって出てきたわけなんだから、基本としては早急

に対応してほしい。出なくて当たり前なんだから、だけど万が一出たらどうするの。大変になるんです。だから、そういうことがあった以上はすぐに問題意識をもって流用するとか。何千万、何億円とかかるものでもないのに、検査をして安心安全な水を供給していますよということを町民に言わないと、どこに何が捨ててあるかわからないんです。それだけは認識していただきたいということが1点。

それと、もう1点は要望なんですけど、井原地区は昨年10月1日で、4自治会を統合させていただきました。それで、発起から2年半で井原の皆さんの協力があってスムーズに自治会が統一できました。

井原が統合したのは、50年前、井原地区の人口が1000人あまりあったんですが、今現在580人ということは、半減しています。その中で、高齢化率が50%ということは、580人のうちの300人近くが65歳以上なんです。邑南町も20年前に合併したときに、1万3500人くらいの人口があった。それが20年間で、約2千人あまり減ったんですよ。広報を見ると、顕著に毎月、前年対比より200人ずつ減っています。

ということで、大屋町長にお願いなんですけど、今回、町長に出られた以上、1期じゃなく、2期、3期を目指しておられると思うんです。そうせんと、1期だけでいろいろなことではできないので、長期的に町政を考えていただきたいというのがあるのと。井原だけじゃないんですけど、井原の高齢化率とか、農林業のことを考えていくと、放棄地が今後、どんどん出てくる。

これも一昨年のNHKのテレビでやっていた職の最前線でやっていましたが、2040年には中山間地の農地が20%くらいになるという話をされていて、実際、井原の自治会の中で検討している中でも考えると、あと16年くらいすると、実際、井原もその程度になる可能性があるんです。自治会の中で話をしているのは、井原は国道沿いに開けているので、条件的にはいいんですが、ある程度コンパクトな町づくり、地域づくりをしていかないと、20年先には、あの集落に1軒とか、この集落に1軒とかになる可能性があるんです。

そこに対して、水道の管理から下水の管理から、除雪からということをやっていくと、すごく無駄な感じになってくると思うんです。昔のように、高水から新町へというようなことが今からできるかどうかは、分からないんですが。町自体が今後、20年くらい先に、町長さんがあと、3、4期やられれば、その間に、この人口って6千人くらいになる可能性は十分あるんです。面積は変わらないのに、人口は合併当時の半分以下になるんです。そのうちの半分くらいが65歳以上なんです。それがこの邑南町の中に今の形でばらまいていたら、行政がめちゃくちゃ非効率です。その人たちもまた大変になるんです。そういうことを考えると地域の中で、どこを残していかないといけないか、農地もです。そういうことも考えるなりして、コンパクトな町づくりを今後していかないと、なかなか生活していくのが大変になると思うので、そういうことも含めて長期的に町づくりを考えていただきということがお願いします。以上です。

- 大屋町長 最初の水道の話にふれますと、確かに〇〇さんが言われるとおりで、そのときの判断はあるんだと思うんですが、結局、検査をして手間とお金がかかることと、もし出たときの遅れて分かったときの対応だとかということ、当然、その都度やって、「皆さん心配いりませんよ。安心ですよ。」というのが本来の姿だと思います。

ただ一方で、今回出たところの情報もきちんと入ってくる中で、可能性という

言い方は変ですが、飛行場の傍で泡消火器を使うような場所であるとか、そういうこともあって、山間部は比較的少ないということと。どこを検査するのかとか、言われたとおり、可能性が高い場所からやっていって安全ですよということもあったんだと思います。来年度早々にと言った時に、あと90日どうかということもあるんですが、その件については、就任して早々に水道課から報告を受けています。

対応をどうするかという話もしていますので、責任を持って考えながら進めさせてください。ご意見はもっともだし、行財政改善と言ったときに、今、かかるお金と安心感と、将来の負担のバランスなんだと思います。その辺も含めて、今、こうしますとは言いにくいですが、もう一回協議をさせてください。おっしゃるとおりですし、出ないのがわかってしないのであれば、ちゃんと検査をして出ませんというのをすべきだと思います。

次の話のコンパクトシティは、住む場所をコンパクトにという話はよくわかります。ただ今のところ、選挙の公約等も含めて、私自身は、全く正反対の今のままとする思いを持っています。

職員の皆さんにも邑智病院の管理者としての話をしたときも、面積は変わらないけど、人口も世帯も減ってきている。人口が減るほどに世帯は減っていないというのは、若い人が家を建てるというのもありますし、高齢者の方が2人で住んでおられたのが、1人になってくるということもあります。行政効率を考えれば、それは近いところがいいんだけど、それぞれの生きがいの問題もあるし、生活を変えたことによってどうなのかという問題もあります。農地をどうするかというときに、いい場所だけ守る農地と、そうじゃない農地を分けなきゃいけないというのも分かります。ただ、本当にそれをしたときに、奥に農地があって人が住んでいてもらっているおかげで、中心地の農地や生活が成り立つ部分もあります。

そのへんはきちんと整理しないと、いいところだけ守ってみたら、山がどんどん浸食して水路も奥の方で管理できなくてということにもなるし、インフラ整備だと思えば、ケーブルテレビも水道も下水もコンパクトの方が、経費がかからないのはよくわかっています。そのへんも職員の皆さんには工夫しようということと、それが町にとって負担な部分は国に訴えなきゃいけない部分はしっかり訴えようという話もしています。

先週、国に行ったときにも、国土交通省の会議でしたが、財務省からは人が住まないところで何でそんなに金をかけているんだと言われるそうです。ただ、人が住まないからお金をかけられないんじゃないかと、そこにお金をかけないと、農地も守れないし、食糧生産もできない。こういう町にお金をかけることで日本が成り立つんだというのは大げさですが、今年、米が高かったのも、そういうこともあるんだと思います。町の負担ということもありますが、皆さんの生活が本当にコンパクトなのがいいのかもあります。

常に、今全部を守るんだと思いながら、コンパクトにしないんじゃないかと、その思いの中での、いざとなったらどうするかというときに、どこをやめてもらって小さくすればいいのかというやり方もあると思うので、それはそれでしっかり考えていながら今の皆さんの生活や農業生産を応援していきたいと思っています。

基本、今の姿勢は、〇〇さんの思いとは正反対のところもあるんですが、まずは今の皆さんの生活、今あるものは守っていききたいという姿勢で、役場職員の方

にもお願いをしていきます。

大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方いかがでしょうか。はい、どうぞ。

- すみません、井原の〇〇でございます。まず1点は、邑智病院の話が先ほどございましたが、社協の撤退によって介護関係を邑智病院が引き継ぐということで、それにより経営の状態と、邑智病院のサービスがどうなっていくのかということをお教えいただきたいというのと。

邑智病院は新しくなって、今は受け付けまでにかかなり時間がかかって、クレームが出ていると思うんですが。新たになって、せっかく良い建物なんだけど、初診、再診のときに血压や体重を測るという部屋はあるんですが、これが車椅子に乗ってくる方に対しての配慮が全くないと感じています。2、3人が入って車椅子が入られると、車椅子の方が嫌がっているかなというイメージを強く持っています。

それから、歯科で入るところで、車椅子の方は廊下で待つというような感じになったように思います。それがどうなっているのかというのが、病院に対してどう対処するかというのを教えてもらいたいというのが1点と。

もう1点は危機管理のことで、今、消防団の団員数がかなり減ってきているかなと。特に、石見が減っていると思っています。異常気象が続く中で、大災害があったときに、消防団員数が足りないということで、誰が地域を守ってくれるのかということが1点と。消防団員については、役場の職員がかかり入っています。大災害があったら、役場の職員はたぶん対策本部に取られていくんじゃないかと思って。ますます団員数というか、守っていただける方が減ってくるんじゃないかと。ないとは思いますが、それに大変、危機感を持っています。それを今後どう考えておられるかということ。

大屋町長 ありがとうございます。邑智病院のことは、社協が辞められたのはいろいろある中で、デイサービスは今ある他の施設に移るんだと思います。邑智病院がやるのは、訪問看護で看護師さんが行く部分です。

先般も邑智病院から話が合って、同じ敷地内でそれを持っていないと、病院運営の加算という、お金の収入が変わってくるということで、引き続き邑智病院でやらせてもらいたい。そこにかかる経費が、週に2回程度の訪問なので、今のスタッフでできる。最終的には少し、人を雇いたいことはあるみたいですが、それで差し引きしたときに、損ではない。しなければ逆に収入が減ってしまうし、それが大きな負担ではないし、そこに入るお金も考えれば、病院がやることなので、新たな負担にはなりませんということです。いろいろ心配してもらってありがとうございます。

車椅子の配慮というところは、今ある古い建物はそのあとにできた新館を直した後は壊すので、もっと出入りは楽になります。病院に行った時に、ここがちょっと不便ですねと言ってみたら、やっぱりつくってみたら不便な場所はたくさんあるみたいです。できる修繕や改善は、業者さんがまだ出入りしているので、皆さんの声を聞きながら細かいところで、できるところは直していかれているようなので、もう少し時間が経てば、最終的には使いやすくなると思いますし、そういう声はしっかりと届けていこうと思います。

危機管理の消防団ですが、昨日も、中野の座談会で話がありました。改めて、この地域で、町としても皆さんにお願いする中で、消防団であるとか、民生委員

さんとか、児童委員さんとか、いろいろな役があります。その役を、こうやって出ている人は知っている。だけど、だんだん地域のいろいろな役がなくなってお世話になりながら、皆さんが互いに助け合いながらやっているのがわからなくなっている。例えば出初め式のときに配ったパンフレットを今、全消防団の方に渡すほどに配ってないところもあったりして、ネットで見られるし。ただ、それを常会で町民の皆さんに配ったらどうかという意見もありました。そういうことをしながら、まず皆さんにお世話になりながら生活しているんだよ。こういう役があるんだよということを示して、また次の勧誘にと。

今年、成人式で初めてふるさと会の案内を入れました。たぶん、だれも入ってもらっていないです。そんなにすぐには入ってもらえないんだけど、ただ、こういうのがあるんだという話は、成人者から出たみたいなので、そうすると、次に声をかけたときに入ってもらえるかなと思います。十分、そういうところで消防団の方にもお願いしないといけないので、地域の役がありますよということを示しながら協力してもらえればと思っています。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。

- 皆井田の〇〇でございます。日頃は、いろいろとお世話になっておりまして、ありがとうございます。本日は、いい機会でございますので、いろいろなご意見を聞かせていただきました。質問させていただきたいと思います。

まず1点、雲井の里に出す農産物が少なくなるということに対してですけど、高齢の方もつくろうとはするんですけど、畑に植えた作物がサルにやられたとか。もうちょっとで採れるというときに、持って逃げられるということで、防柵しかない。なくなるからやめるとか、出さない、出せないということが非常に多くて。井原地区はサルの群れが3つくらいあるかなと思います。根本的に、そういった野猿対策とか、鳥獣対策ですね。これらを町でも本気でやってもらわないと、この山際にある畑は本当は畑なんですけど、つくっても取られる。だからメッシュして網を掛けても入ってくるとか、そういったことがありまして、矢上とか中野では全然考えられないことですが。そういったことの対策を本気で考えていただかないと、農産物をつくる意欲もありますけど、どこでもつくれるということをししないと、若い方も山際でつくることには抵抗がある。転作したり、いろいろするんだけど、それでも心配。そういったところに向けて目を当てていただいて、生産を増進していただくことをしないと、雲井の里ですけど、ほかにも生産者がつくって出してくれても、出そうと思ってつくるんだが、半分はもうないとか。大根をかじられたとか。製品としてはならない。そういったところがすごく心配なところが、この地域はありますので、野猿組合などもありますけど、そこと連携していただきながら、本気で対策したり、知恵を絞っていただいてより良いものができるように。安心して、その一旦でもいいですから、お力をいただければと思いますので、その点をよろしくお願ひしたいと思います。

気がついたことを言うんですが、日常の検診で40代、50代は受診率が低い。これは低いのではなくて、事業所に勤めているから事業所で検診しているの、町から案内があってもいいですと返すから受診率が低いと思うんです。だから、勤めている方には案内を出さなくてもいいんじゃないかと思います。

国民健康保険の方が主に町として把握されるのであって、住民全員に出すことが無駄なことだと思いますので、私も大腸検診もくるし、何でだろうとか。職場でやっているんだけど、町としての基準もあると思いますけれど、もう少し見

直しをされては。封筒の数も少なくなるし、半減するんじゃないかと思います。そういう考え方も持っていただいたらと。いろいろな方に諮っていただければ、保健課の方ですか、福祉課の方ですか。楽になるんじゃないかと思います。

あとは、部活動の地域移行ということですが、指導者の育成というところで、町も今から計画を練っていかれるということですが、部活にしてもスポーツのことですので、指導者もそのスポーツに精通した方がやられるんでしょうけど、それに伴ってスポーツを教える資格が今、求められている時代です。

スポーツ協会から言いますと、指導者資格講習を受けたとか。この資格講習というのが何かと言うと、スポーツ医学もですし、それから、パワハラ、モラハラ、こういった指導の仕方。それと子どもの心の育成。そういったところの講習を受けないともらえないスポーツ指導者講習に、今なっておりますので、そこには3日とか4日間の講習を受けないともらない資格です。これを毎年、更新しなきゃいけないとか、2年に一回更新しなければいけないとか。県内であればいいですが、中国地方で一カ所とか、そういったところで限られるものもありますので、そういった経済的な負担も非常にあって、指導者になりにくい。やりたいけどできないとか、そういった弊害が出てくると思います。

今から国体も控えておりますが、そういったスポーツ協会というのは、そういった指導者は、ただ自分はスポーツが好きだからではできないわけです。資格がなければコーチとして認められないというものになっているはずなので、そういったところは、地域移行をするにしても、指導者というのはこういうものですから、それに対してまとめて講習会をするとか。たぶん、教育委員会もスポーツ協会にも精通しておられると思いますけど、そういったところで教えてあげたほうがより良い取り組みができるし、地域移行をするにしても弊害が出るところだと思いますので、それをもっとオープンにして出してあげればいいんじゃないかと。各運動部がありますよね。そういうところへ情報発信されたらいいかなと思います。

あと、もう一個だけ、すみません。いつも車に乗って町営バスの後ろについて走ることもあるんですが、川本線は後ろにおおなんバスと貼るところがあるんですが、そこがめくれて見えんです。ポロポロになって、そのまま2年、3年経っているものもあると思います。どこのバスだろうと。バスの「ス」があるから、おおなんバスなんだなと。貼るところはあるんですけど、いつまでたってもめくれっぱなしのポロポロのまままで走ってもいいのかなと。非常に町民として情けない思いをしております。めくれたらすぐに直すとか、もっと課の方でも配慮していただければ、イメージアップにもなるんじゃないかと思います。

バスも費用が大変だったら広告を受けるとか、ラッピングして宣伝するとか。そういったことをやられたらいいかと思います。もう一つは、町の封筒にも企業名や団体名を入れてスポンサー料をとって封筒をつくる場所もありますので、そういった形で、スポンサー料を取ってでも、宣伝になればその会社もいいわけですから、団体とか、NPO法人もありますし。そういった雲井の里も宣伝になれば、年間1万円でもいいよとか、何枚かつくってもらって出すとか、そういうことができるような封筒をやられればいいかなと思います。以上でございます。

大屋町長 ありがとうございます。立場が変わって、見えるものが見えなくなったと言ったとおり、バスもおっしゃるとおりです。スポンサーとかも課長会議とかで投げかけると、なかなかねと言われちゃうのかなと思いますが、取り組んで

みるといいなと思います。課の再編や組織を変えるのは、2年くらいは名前を変えたくないですと言っています。封筒も変えたり、いろいろお金がかかるだろうし、看板も。ただ次にやったときに、ある程度、課の名前はこの体制でしばらくいくよと言った時に、封筒に役場の課の名前を入れて、スポンサー協力できれば、加えさせてあげるといことですよ。まあ、それは冗談にしても。

- そういうふうに入れさせてもらったら、何か活気があるとか。

大屋町長 本当に行財政改革で皆さんに負担をかける場合がある以上は、町も得られるお金は頑張りなさいということだと思いますので、頑張ります。

あとは、簡単で申し訳ないですが、鳥獣被害は、邑南町は産業支援課に鳥獣害対策の3人おられて、毎月けもの新聞出されて頑張っている方だと思いますが、現実はということがあると思います。一方で、今後取り組んでいくことということで、産業振興の下から2番目に農地維持のために、〇〇さんが言われたとことと違うことにもなるかもしれませんが、周辺林地、特に奥の方の農地で鳥獣害対策も含めて、水路の維持も含めたりする中で、山の整備をすることによって少し軽減できたよねと、本当になるかどうかは別にしてもモデル的に取り組むことができればいいかなと思っています。なかなかすみません、被害があるところに住む人とそうじゃない人で実感が違うところがあって申し訳ないんですが。特に、ブドウとか果樹はサルが出たらやめるとい声も聞きますので、そこはしっかり取り組んでいきたいと思っています。

人間ドックは、あくまでも対象者受診率なので、低いのは低いです。ただおっしゃるとおり不思議な部分もあって、なんで勤めている人に全部、案内を出して、受けるかどうか返すんだらうと思いますが、その仕組みがあるんだと思います。必要のない手間であれば減らせれば。今は一方的に送りますが、返信はQRコードだったりもしますよね。そういうところも踏まえながら、工夫していきたいです。

ちょっと踏み込むと、ここに人間ドックの受診率向上と書いたのは、特に40代、50代と書いたのは、人間ドックの受診のための町の補助は、今、1万円です。ただ病院の値段は上がってきているので、もう少し増やさないといけないかなと。増やさないと受診率が落ちていくかなと。ただ、対象が190人くらいおられるので、1万円を1万5千円にしてもお金がないよなという思いがあって、せめて、40代、50代だけしたらどうか。そこだけするのは、いかがなものかと言われるとか、いろいろな思いがあって、現状がこうですということで、その中でどうしようという提案も含めて課長会議でも話をしたので、こういう感じです。

指導者の育成は、お話の意味も含めながら、資格を取ったりするのに時間もかかるので、いざお願いしますということとはできないということなんだと思います。議会でも質問がありながら、奈須議員がよく聞かれていて、あんまりピンとこないところがあったんですが、今、改めて聞かせてもらってよくわかったので。そういう意味で、早く準備をして計画作成も指導者育成も一緒に進めていければと思います。副町長も教育長もおられながら、それぞれにしゃべってもらえればいいんですが、時間もないので。ありがとうございました。

大賀総務課長 ありがとうございます。は、どうぞ。

- 宮野原の〇〇です。どうにもならないんだらうなと思いつつ、要望というか質問なんですけど、井原の駅に回転場があって駅舎もあってトイレもあるんです

が、トイレが待合場の前にあるんですよね。トイレの方が全面に出ていて、その奥に待合場があるという構造になっているんです。これはちょっとバスを利用される方も、どうなっているの？という感じになるのではなからうかと。

ただ、土地は誰が管理していて、どこがつくっているのかもわからないし、状況は一切分からないんですが、使う側としてこれはと思ったので、お伝えしたいと思います。

大屋町長 ありがとうございます。前提で言っても無駄かなということも、毎回言っていただくと何とかなるかもしれません。それは問題共有なので。それと、いろいろな意見を聞いて、私は違いますがこの場では言いながら、家に帰ってとか、違う場面で同じ話をされると、やっぱりそっちが正しいのかな、変えなきゃいけないかなということもあります。無駄かなと思うことも毎回言っていただければと思います。

それと、先に言うのを忘れてましたが、次第の中に町長への手紙と書いています。12月議会で、町長室に直接とどくFAXの番号と、役場の玄関口に意見箱がありますと言いましたが、広報に出ていますあまり目立っていません。今まで一度もFAXが届いたことも、意見箱に紙が入ったことがないのが現状です。皆さんに何も意見がないとは思っていません、ちょっと手間なんだろうし、今の時代にFAXは似合わないんだと思います。ここにQRコードを載せていますので、メールがすぐに打てるようになっています。お名前とか任意になっています。書いていただいても結構ですし、書いていないからと粗末に扱うわけではないので、出しやすい形で伝えていただければと思います。

今の〇〇さんお話は、しっかりと踏まえて約束はできませんが、使っていないのでわからなかったのも、話をさせていただいてよくわかりました。ありがとうございました。

大賀総務課長 ありがとうございます。予定しておりました8時にもうすぐなりますので、このあたりで閉会にしたいと思います。閉会にあたりまして、白須副町長、ごあいさつをお願いします。

4. 副町長あいさつ

今日は、夜分にお集まりいただきまして貴重なご質問、ご意見をいただきありがとうございました。時間が限られておりましたので、まだまだ質問もあったらうかと思いますが、先ほど、町長が申しましたように、FAXや、このQRコードを読み込んでスマホからもできますので、たぶん明日の朝、パソコンの前で待っておられると思いますので、よろしく願いいたします。

今日の話の中でもありましたが、新年度の予算を今編成しております。いろいろな課題を抱える中での予算編成です。毎年、我々が予算編成をする前に、町長が来年度の方針をしっかりと職員に示して、予算編成に取りかかるんですが、大屋町長になられて初めての予算編成の編成方針は、財政再建でございます。そういう中での作業でございますので、今、いろいろな事務事業の見直しをして、見なせるところはしたいと考えております。その結果、皆さんの生活や事業活動に少なからず影響を及ぼすことが出てくる可能性がございます。その点につきましては、しっかり事前に説明させていただきたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。また、いろいろなご意見をそのときにはいただくとしたいと思いますので、しっかりとそのご

意見を受け止めて来年度以降の予算編成の参考にさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

また、併せて中長期的には小中学校の在り方とか、地域コミュニティの再編につきましては、井原地区は積極的に進めていただいておりますが、そういったことは一つ一つ皆さんと情報を共有しながら、協働、皆さんと一緒に進めていくという意識をしっかりと持って進めたいと思いますので、ご協力をよろしく願いいたします。

最後になりますが、今日は寒さが厳しい折で、また、暗くなっておりますので、交通安全には十分に注意して事故のないように帰っていただければと思います。本日は長時間にわたりまして、さまざまな貴重な意見をいただきましてありがとうございました。簡単ではございますが、閉会にあたってのあいさつとさせていただきます。

大賀総務課長 ありがとうございました。それでは、これ